

第1回国際シンポジウム 「芸術を通じた異文化間の対話：地域創り、教育、方針」

日程: 2017年9月21～24日

会場: 佐賀大学 / 特定非営利活動法人ティエンポ・イベロアメリカーノ (福岡市)

発表者募集

■開催趣旨

第1回国際シンポジウム「芸術を通じた異文化間の対話：地域創り、教育、方針」は、佐賀大学芸術地域デザイン学部及び大学院地域デザイン研究科の新設(2016年)を記念するものであると同時に、語学・舞踊・音楽・アートを通じた異文化交流活動を行っている福岡のNPO法人ティエンポ・イベロアメリカーノの設立20周年記念事業の一環として、以下に紹介するMulticultural Fitness Community (MFC)、文化教育学部及び、同じく設立20周年を迎えるCultnet(言語教育の「文化的側面」への関心をシェアする研究者グループ)の協力のもと開催されます。

2015年6月以来、佐賀大学に基盤を置くMulticultural Fitness Community (MFC)はティエンポ・イベロアメリカーノの協力のもと、佐賀大学生の異文化間コミュニケーション力の錬磨を目的として、学科型のダンスを中心としたコミュニケーションプログラムを作成し実施してきました。このプログラムは、言語・非言語によるコミュニケーション、個人的・社会的アイデンティティ(ジェンダーとグループのアイデンティティを含む)、ダンスを通じた創造性の発展を目的としています。また、この多文化体験型プログラムは異なった言語や文化背景を持つ学生同士が繋がり合い、画期的で躍動感ある異文化コミュニティに身を置くことによって、キャンパス内の国際化を広げることも目指しています。同時に芸術と都市デザインをリンクさせ、2016年4月佐賀大学に新設された芸術地域デザイン学部が掲げる目標にも反映されています。(*活動の様子はフェイスブック上のMFCで一覧できます。<https://www.facebook.com/stephanciesensei/>.)

このような活動を基盤として、この国際シンポジウムでは芸術をコミュニケーションのツールとし、様々な社会的境界を越えた考え方をもち、異なる文化への理解・敬意を払える本当の意味での国際感覚を身につけた市民を育むことを目指します。昨今の急速なデジタル化、機械化、政治化された世界においてこの国際理解は、個人・地域・企業・国家間のレベルを問わず、現在・未来において真の国際交流を導くものとして、極めて重要であると私たちは捉えています。

社会的境界線はグローバル化による競争力に応じて広まったり、狭まったりするかもしれません。交通網やソーシャルメディアの発達により、日々の生活のなかで異文化に触れ、コミュニケーションを図る機会はますます増えていくでしょう。しかし、この近代の文化社会的状況において、人々は容易に孤立してしまい、人の温かみを感じられるコミュニケーション不足に陥ってしまいます。さらに、クリックひとつで容易に人と繋がったり、関係を断ち切ったりできるソーシャルメディアは、コミュニティの境界線を自由に描けるような幻想を創り出していますが、それによって異なる文化を持つ人々と建設

的な対話をすることを可能にしてくれる国際人としてのマナーの養成を阻害する危険性もはらんでいません。

また、現代の高齢化社会において多くの人々が、人生 100 年時代の到来や異文化・多言語化するコミュニティに対応していくべく健康維持・健康増進に取り組み、自己アイデンティティの再構築に挑んでいかなければならない状況に直面していくことになるでしょう。

このように、異文化間の対話を通じた相互理解は、地域開発の活発な構想化、学際的アプローチを取った地域間での新たな教育的・政策的なイニシアティブが求められると考えます。

相互理解と相互尊重は、人との楽しい活発なコミュニケーションによって促進されます。それには、自己表現力の育成、言語・非言語での異文化コミュニケーションの促進が求められます。異なる意見・思考などを持つ人々と相対する場面では異文化間のコミュニケーション能力や振る舞いを鍛錬していくことも必要となるでしょう。これらは、高齢化社会に向けた健康維持とフィットネス、生涯学習の促進を目的とした異文化間の躍動的な場における社会的交流から生まれます。

しかし、このことは実際には何を意味するのでしょうか。芸術的繋がりを通してどのように実現することができるのでしょうか。そして、どのような結果を生むのでしょうか。

この国際シンポジウムでは、地域開発、教育、方針に焦点を充てつつ芸術を通じた異文化間の対話について探求していきたいと願っております。学者、教育者、様々な分野の専門家や地域役員の方々に広くご参加いただければと願っております。

■開催目的

- 様々な分野の学者、教育者、芸術家、地域役員の方々に呼びかけ、情報交換、交流を図り、互いの分野における専門知識、研究などを分かち合う機会を提供することによって芸術を通じた異文化間の対話を促進すること。
- 芸術やプロのアーティストによるダンスワークショップを通して、各国から集まる参加者同士のディスカッションを活性化させること。
- 芸術を通じた異文化コミュニケーションを考察すること。
- 異文化間におけるコミュニケーション能力を促進すること。(Byram, 1997)
- 芸術を通じた異文化コミュニティ発展についての理解を深めること。
- 地域の学者やリーダーが集い、異文化間の対話、教育、方針について意見交換すること。

■発表提出ガイドライン

テーマは、以下の点を含む異文化間対話、芸術に関するものが望ましいが、これに制限はしない。

1. 異文化間の場における芸術をベースとしたコミュニティ開発
2. 芸術に基づく異文化間の言語・非言語コミュニケーション
3. 身体、芸術、アイデンティティ、表現、国際交流

4. 文化の多様性、言語技術を介した表現と社会的エンパワーメント
5. 異文化コミュニティにおける高齢化、生涯学習、社会的関係、健康、障害、社会政策
6. 視覚芸術型のオンラインコミュニティ発展
7. 異文化間の機関とコミュニティ発展
8. 地域デザイン、国際交流、文化観光と社会政策
9. 外国語教育における芸術に基づく言語・非言語の異文化コミュニケーション

議題:

タイトル、役職・所属・Email アドレス・郵送先住所を含む作成者情報を明記の上、英語、日本語もしくはスペイン語で 150~200 ワードまで。
英語、スペイン語の場合、使用フォントは Times New Roman、サイズ 12 pt (日本語同様)、シングルスペース。

パネルディスカッション提案:

各パネリストの論文を各パネリストの論文を 150~200 ワードに要約ください。書式は上記の通り。

審査:

提出文は査読の対象となります。また、シンポジウムで発表された論文は大会議事録に公表され、主要な国際的出版社に送付される出版企画に掲載される対象となります。

言語:

多言語方式。口頭発表は共通言語の英語、又はスペイン語、日本語。可能な場合は他言語によるサポートをすることを奨励します。
例えば、発表 (パワーポイント、プレジなど) は可能であれば 2 もしくは 3 言語で作成ください。
その他の言語ユーザーによる提案も歓迎されます。
同時通訳は提供されません。

提出期限:

2017 年 5 月 1 日
Stephanie Ann Houghton (houghton@cc.saga-u.ac.jp) へ提出ください。